

# 楽しく美しい まちづくり通信…⑥7

## 炭焼きの煙が 原風景を醸し出す

—雪をすつぽりかぶった炭焼き小屋—

寒に入ってこのシーズン、初めてのもまとまった降雪となり、一面の銀世界。  
深夜から静かに降った雪が木々の梢まで包みこみ、水墨画の幽玄の趣きを醸し出していました。

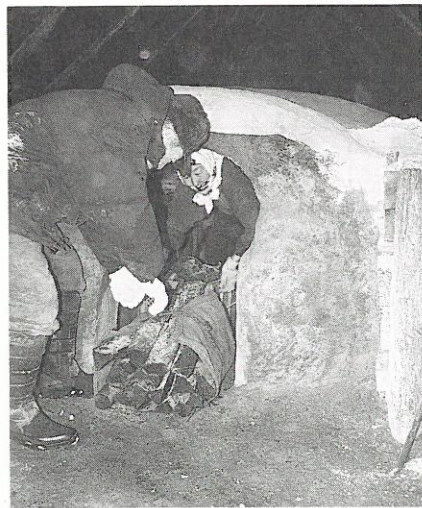


おもり けい し 大森 啓治さん (66歳)  
(上斗米字上川代)

風もなく、音もない、時間が静かに過ぎ、炭焼きゴヤから白煙が立ち上っている…。  
懐かしく変わらない原風景に時がゆっくり流れている。  
十文字川の最も上流、上川代で三代にわたり炭焼きを続けている大森啓治さんを訪ねました。  
大森さんの窯は、自宅の傍らにありました。大滝式といわれる窯が一基、奥行きが十二尺、

幅九尺、六尺、あわ砂と粘土質の土を混ぜて造ったものです。  
今は里でも窯を見かけることがありますが、昔は原木のある山を買って、その山に窯を打って焼き、原木が無くなると移動しました。  
昭和三二年まで国有林だった周囲の山には、払い下げの立木を焼く、炭焼き窯が十五基ならび、白煙が途切れることがなかったと、当時のことを話してくれました。  
現金収入の少ないこの地域で、炭焼きは貴重な、現金収入になりました。

大森さんは学校を卒業すると同時に山に入り、父親から炭焼きを教わったそうです。  
「炭づくりは見よう見まねでできるものではねえ、親父から聞くことのほうが多かった。」と振り返り



奥さんと一緒に炭出し作業

ます。  
「窯から出る煙の色や温度で、出来ばえが分かって一人前。」といえます。原木の伐採、山出し、炭材の調整、窯入れ、炭出し、切断、梱包と繰り返す作業を五五年間続けてきました。  
「炭焼きは、長年やってきてもなかなか思うような物ができない。火を入れてからの温度管理が原木の質や気候によって微妙に違い、二回と同じ物を作る事が難しい。」とまだまだ挑戦中でした。  
八日後、炭出しをするという連絡を受けて再び訪れてみました。「まんずまんずだな」と満足そうな顔にほっとして川代を後にしました。  
取材協力  
大森ミチエさん  
三角虎之進さん  
三角正次郎さん



2月11日～3月10日

### ★2月★

- 11日(木) 建国記念日
- 12日(金) 市民生活相談(市役所市民相談室)
- 13日(土) 映画とお話の会(図書館)
- 14日(日)
- 15日(月)
- 16日(火) 4カ月児健康診査・離乳食セミナー・中期(市保健センター)
- 17日(水)
- 18日(木) 2歳児歯科健康診査(市保健センター)、法律相談(市役所市民相談室)
- 19日(金) 市長と語る日(市長室)、雨水(二四節気)
- 20日(土)
- 21日(日) 第16回二戸市郷土芸能祭(市民文化会館)
- 22日(月) 行政相談(市役所市民相談室)
- 23日(火) 1歳6カ月児健康診査・離乳食セミナー・後期・親子ブラッシング教室(市保健センター)
- 24日(水) 育児相談(市保健センター)
- 25日(木)
- 26日(金)